

■児童・生徒の学力の状況

- 「全国学力・学習状況調査」では、国語、算数共に全国平均を上回り、東京都平均とほぼ同等だった。
- 〈国語〉
 - 全項目の中で、「情報の扱い」「我が国の言語文化」の正答率が高かった。
 - 「話すこと・聞くこと」については、全国平均・都平均は上回ったものの、正答率は低かった。
- 〈算数〉
 - 知識・技能においては、全国平均・都平均を上回った。
 - 「思考・判断・表現」の正答率が低く、「変化と関係」「数と計算」における思考・判断・表現は特に低かった。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 基礎基本の定着を促す指導を工夫すること
- 個に応じた指導法を工夫すること
- 表現力を向上させる手立てを工夫すること
- コミュニケーション能力を向上させること
- 一人一台端末をより効果的に活用し、個別最適な学びを実践すること
- 自己肯定感を高める指導や生活の工夫
- 学習の有用感や学ぶ楽しさを感じさせる指導の工夫
- 家庭学習習慣の定着の促進

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 学習の流れ(学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り)を毎時間行うことで、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。また、児童が主体的に取り組めるよう授業改善を進める。
- 保護者と連携し、家庭学習を充実させる。学年×10分間(第1学年は20分間)の家庭学習の実施を行うことで、基礎的・基本的な学習内容の定着、学びに向かう力の育成を目指す。一人一台端末を活用し、個別最適な学習となるよう工夫する。
- 習熟度別少数指導や協力、認め合い、学びの深化などの協働学習を行うことで、児童が学びたいと思える魅力のある授業づくりを行う。そのための教員の指導力向上に努める。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

| 視点1 | 視点2 | 視点3 |
|--|--|--|
| 板橋区授業スタンダードの徹底 | 読み解く力の育成 | 総合的な学習の時間との連携 |
| ○各教科等の授業において、ゴールイメージをもてるめあての提示 ○一人一人が自力解決できるよう時間をしっかり確保 ○めあてに立ち戻り、振り返りができる板書計画や発問の工夫 | ○文章を正しく理解したり、資料から情報を読み取ったり図表を用いて表現したりする学習活動を積極的に取り入れる。 ○新しく獲得した言語を学習や日常生活で使用する機会が増えるように指導を工夫する。基礎的な知識・技能の定着を図ると共に、思考力や表現力の向上を目指す。 | ○探究的に学習を進められるよう、児童の疑問から課題設定を行う。 ○各教科において考える力や情報の収集を行い、自分たちができることを考え、実践していく。 |

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

| 小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用 | カリキュラム・マネジメントの推進 | ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現 |
|--|--|---|
| ○学びのエリア研修会を実施 ・4校の教員で各教科等の指導方法内容について相互理解を図る。9年間を見通した指導を展開し、学びのエリア全体の学力の向上を図り、読み解く力を育成していく。 ○子ども新聞の活用 ・各学級で子ども新聞を活用し、読んで自分の考えをもったり、共有したりして読み解く力を高めていく。 | ○校内研究「社会性を育む学級化都度～みんなで輝く話し合を通して～」の充実 ・全学年、全学級が同じように話し合いを進めていけるように、話し合いの進め方を全教員でOJT研修を行う。 ・話し合いの進め方シートを児童が活用できるようにする。 ○総合的な学習の時間の充実 ・教科等横断的な視点で総合的な学習の時間を設定する。教科とのつながりを意識した単元計画を作成、引継ぎを行っていく。 | ○一人一台端末の活用 ・「ムーブノート」や「オクリンク」を、全学級で効果的に活用する。考えの共有を図ったり、表現方法を工夫したりして思考力・表現力を高める。 ・「ドリルパーク」を活用し、家庭学習に取り組むことで、基礎的な学力を養う。 ・「ドキュメント」「スライド」等を使用して共同編集による意見の交流や考えの表現を行う。 |